

ふたたび、はじまる。
再会、只見線



只見線全線
運転再開記念Ver

絶景はつづく、どこまでも。

只見線車窓

ガイドブック

BEST VIEW POINT

新潟編 小出→只見

福島県只見町



— 特集 —
六角精児の
酔い日
旅立ち

ふたたび、はじまる。
再会、只見線



只見線全線
運転再開記念Ver

絶景はつづく、どこまでも。

只見線車窓

ガイドブック

BEST VIEW POINT

福島編 会津若松→只見

福島県只見町



— 特集 —
六角精児の
酔い日
旅立ち

2022年10月1日

約11年ぶりに

全線で運転を再開した只見線。

四季が織り成す、

秘境の絶景が待っています。

CONTENTS

只見線の紹介

只見線再開までの道のり／3-4

会津若松駅～只見駅／5-34

現地観光情報／35-44

六角 精児と巡る只見線／45-48

只見線の歴史／49-50

只見線のアクセス・時刻表／51-52

只見駅～小出駅／53-60



只見線車窓ガイドブックの使い方

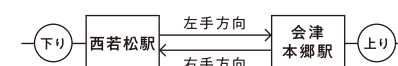


◀左の表紙は小出駅から会津若松駅に向かう車窓です。
▶右の表紙は会津若松駅から小出駅に向かう車窓です。

■掲載例

下り／左側の車窓です

西若松駅から約3分38秒後

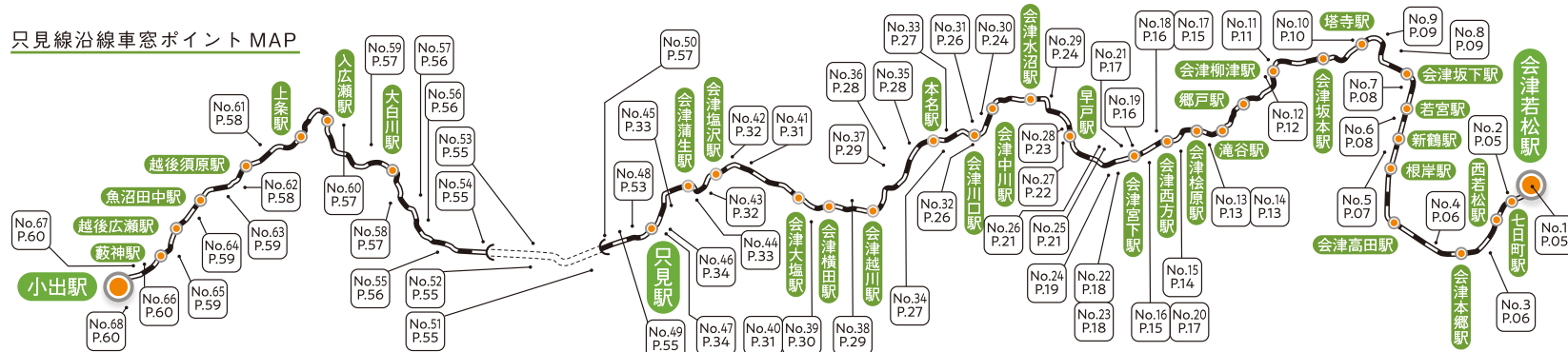


会津本郷駅から約1分25秒後

上り／右側の車窓です



只見線沿線車窓ポイントMAP



1

2

将来の夢は 「只見線の運転士」。 たくさん人をのせて 只見を自慢したい

つのだあつひろ
角田淳紘くん／
福島県只見町



指折り数えて待ちわびた

10月1日の「全線運転再開」

「只見線大好き少年」として今、メディアにひっぱりだこの淳紘くん。全線運転再開した2022年10月1日には、憧れの制服に身を包み、一日駅長を務めました。春にお母さんからニュースを聞いてすぐに自作した「カウンタダウンカレンダー」をめくりつつ待った日を、ようやく迎えることができたのです。



これまで「自主学习ノート」に書いてきた只見線の集客アイデアを説明してくれる淳紘くん

幼いころから列車好きだった淳紘くんが、家から一番近い路線・只見線に興味を持ったのは自然な流れでした。しかし当時はすでに新潟・福島豪雨の影響で会津川口～只見間が不通となった後。それでも運行区間まで行き何度も乗車してきました。好きなのはディーゼル車ならではの音、そして車窓からの風景。特に只見駅・会津蒲生駅間に架かる叶津川橋梁を渡るタイミングがお気に入りです。ホームや車窓から写真を撮るの

も大好きで、只見線をからめた四季折々の風景を自慢のデジカメに収めてきました。

只見線ファンを増やすため 知恵をしぼる毎日

2022年7月末、「只見線が赤字を抱えている」という新聞記事をお母さんに見せてもらった日から、淳紘くんが学校へ提出する「自主学习ノート」には、只見線の集客アイデアがたくさん書かれるようになりました。「駅の近くにトレッキングできる山を作る」「寝台列車を走らせる」「列車内で餅つきイベントをして、只見の特産・マトンを入れた“マトン餅”を作る」……。只見線のこととなると、アイデアが次々に浮かんできます。まずは只見線のファンをもっと増やすことが大切。もっと多くの人に只見線の魅力を知ってもらうには、何をすればいいのかな？と、今懸命に知恵をしぼっているところです。



只見線グッズもたくさん収集。全線開通の日にあわせ、ペットボトルの蓋を使った「只見線アート」も作りました。



只見線 再会までの道のり 2011-2022

2011年7月に発生した新潟・福島豪雨の影響で、只見線は橋りょうの流出や土砂崩れによる線路の崩壊など、甚大な被害を受けました。一時は「復旧は難しいのではないか」との声も聞かれましたが、地元の全線復旧への強い思いと関係者の懸命な努力が実を結び、2018年6月に復旧工事が始まりました。そして、2022年10月1日に全線運転再開となりました。

2011(平成23)年

- [7月27日～30日] 新潟・福島豪雨災害により只見線に被害。会津川口～会津大塩間で第5・6・7只見川橋梁が流失、また第8只見川橋梁の冠水及び会津坂本～会津柳津間で路盤が流出したことにより、会津坂下～小出間が不通となる。
- [8月7日] 会津坂下～会津宮下間で運転再開。
- [8月11日] 大白川～小出間で運転再開。
- [12月3日] 会津宮下～会津川口間で運転再開。

2012(平成24)年

- [10月1日] 只見～大白川間で運転再開。これにより、不通区間は会津川口駅～只見駅間となる。(代行バス運転あり)

2013(平成25)年

- [5月21日] JR東日本が会津川口～只見駅間における復旧費用が約85億円、工期4年以上となることを公表。
- [11月10日] 只見線の復旧・復興に向けた連携の強化、利活用促進策等の検討のため、JR只見線復興推進会議(福島県、会津17市町村、新潟県、魚沼市、関係団体で構成)を設置。これ以降、2017年にかけて、福島県・関係市町村において利活用策を検討するとともに、沿線市町村において住民懇談会を開催。

2016(平成28)年

- [12月26日] 福島県と沿線自治体において、上下分離方式により鉄道復旧する方針を採択。

2017(平成29)年

- [3月27日] 福島県JR只見線復興推進会議において、地元の総意として上下分離方式による復旧方針を決定し、福島県と会津17市町村で確認書を締結。
- [6月19日] 福島県とJR東日本は、会津川口～只見間を上下分離方式により鉄道で復旧することで合意。

2018(平成30)年

- [6月15日] JR東日本において鉄道復旧工事起工式が金山町で執り行われ、2021年度の工事完了を目指し復旧工事が開始。

2020(令和2)年

- [3月14日] ダイヤ改正により、会津若松～会津川口間でキハE120系の運行が開始。
- [7月12日] 只見～小出間でキハ110系の運行が開始。
- [8月26日] JR東日本が、第6只見川橋梁における工法変更のため工事完了時期が2022年度上半期になる見込みであること、運転再開時期を2022年中を目指すことを発表。

2021(令和3)年

- [7月10日] 会津鉄道「お座トク展望列車」が会津若松～会津川口間を運行。このうち、西若松～会津川口間は初入線となる。
- [8月29日] 只見線全線開通から50周年となる。これを記念し、「只見海里」が小出～只見間を運行。
- [11月30日] 福島県が会津川口～只見間において、上下分離方式の導入のため第三種鉄道事業許可を取得。また、JR東日本が同区間において第二種鉄道事業許可を取得するとともに、2022年秋ごろの運転再開を目指していることを発表。

2022(令和4)年

- [10月1日] 全線運転再開。

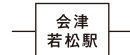


←只見駅に
記念列車が到着



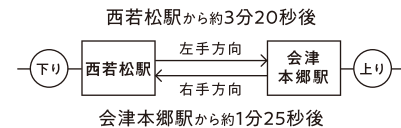
車窓
NO.1
TADAMI LINE
春～冬

只見線の出発点は、会津地方の玄関口・会津若松駅です。これから始まる車窓の旅に向けて、旅のお供の準備を忘れずに。



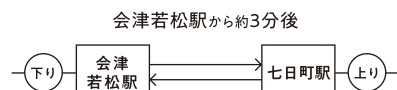
車窓
NO.3
TADAMI LINE
春～冬

西若松駅から少し走ると阿賀川にさしかかります。阿賀川は新潟県に入ると、「阿賀野川」に名前が変わる珍しい川です。



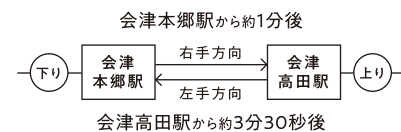
車窓
NO.2
TADAMI LINE
春～冬

会津若松駅から次の駅の七日町駅は、周りのレトロな町並みと相まって可愛い駅舎です。車窓の旅の前にちょっと寄り道でも。



車窓
NO.4
TADAMI LINE
冬

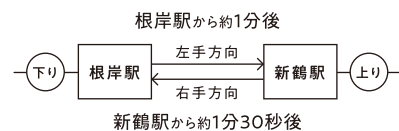
実りの秋を過ぎ、冬を迎えた田畑は雪の下で次シーズンへの力を養います。その向こうにはゆったりとそびえる磐梯山が。





車窓
NO.5
TADAMI LINE
秋

神社の周りを美しい紅葉と高い木々たちが囲み、彩っています。長い歴史と季節の移ろいを感じる景色。



夏 | 7月頃

只見線 ちょっと寄り道話

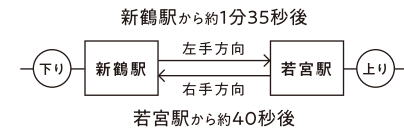
弘安寺(中田観音)

境内に飾られている鎌倉時代に造られた「十一面観音像」は、日切り・縁結びの他、安産など、女性に嬉しいご利益があるということで有名で、野口英世の母・シカが、息子の火傷治療と立身出世を祈願したことでも知られます。堂内の「だきつき柱」に抱きつくご祈願がかなうといわれています。また弘安寺(中田観音)は、西会津町の如法寺(鳥追観音)、会津坂下町の恵隆寺(立木観音)と並び、「会津ころり三観音」として古来より信仰を集め、会津の霊場巡りのスポットとなっています。



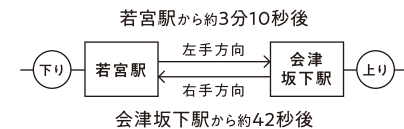
車窓
NO.6
TADAMI LINE
冬

車窓から見えるのは会津の冬の代名詞、防雪ネット。山から吹き下ろす風と雪から只見線を守ってくれます。



車窓
NO.7
TADAMI LINE
春

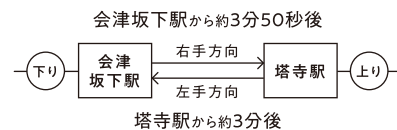
会津坂下駅に到着する直前に目に飛び込んでくる大きな桜。桜の木の後ろ側に会津農林高校があります。





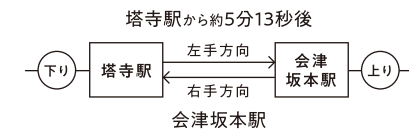
車窓
NO.8
TADAMI LINE
春～冬

会津坂下駅を過ぎると、豊かな木々に囲まれた景色に。そんな木々の景色の中に見える山々と田園は、会津の豊かさの象徴です。



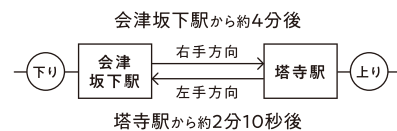
車窓
NO.10
TADAMI LINE
春

春の会津坂本駅に到着すると、ホームでは桜がお出迎えをしてくれます。人だけでなく自然からもおもてなし。



車窓
NO.9
TADAMI LINE
冬

磐梯山の前に清々しく広がる銀世界。葉を落とした果樹や常緑のスギも雪をまとい、日本画のような景色を演出します。



只見線 ちょっと寄り道話

会津坂本駅の駅舎

会津坂本駅は、貨車の廃車体を再利用したものが駅舎として使われています。貨物列車「ワラ1形」の車輪や連結器、扉を取り外し、新たに出入り口と窓を設置。入口から向かって右側が待合室になっています。

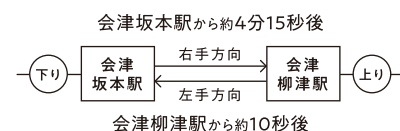
このような「貨物駅」は北海道でもよく見られ、ホーム脇に周囲を取り外した荷台部分だがボンと置かれた様子から、鉄道ファンの間では「ダルマ駅」と呼ばれるそう。福島県内のダルマ駅は唯一ここだけとなっています。





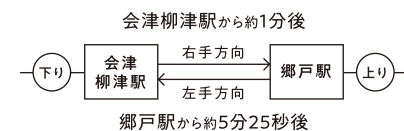
車窓
NO.11
TADAMI LINE
春～冬

会津柳津駅に近づく、車窓からSLが。以前、会津線などで活躍していた本物のSLで、春の時期には桜と一緒に楽しむことができます。



車窓
NO.12
TADAMI LINE
秋

柳津の象徴・福満虚空蔵菩薩圓藏寺の後姿が見える貴重なポイント。鮮やかな紅葉と白壁との対比が美しく映えます。



春 | 4月頃

只見線 ちょっと寄り道話

会津柳津駅のSL

会津柳津駅には、かつて利用されていた貨物ホームがありますが、ここには蒸気機関車(C11の244号機)が静態保存されています。このSL、昭和18年5月に製造されたもので、用途廃止になる昭和48年11月まで活躍したそうです。利用末期は只見線でも実際に運用された可能性があるそうです。屋根付きの場所で保存されているので、状態がとても良く、今でも走り出しそうな雰囲気があります。春の桜の時期には、近くで咲く桜との競演が楽しめます。



春 | 4月頃

只見線 ちょっと寄り道話

福満虚空蔵菩薩圓藏寺

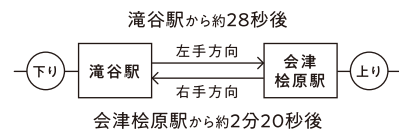
会津柳津駅から歩いて10分ほどで着く、約1,200年におよぶ歴史を誇る会津きっての名刹・福満虚空蔵菩薩圓藏寺。日本三大虚空蔵のひとつとして昔より人々の厚い信仰を集め、会津では親しみを込めて「柳津の虚空蔵さま」と呼ばれています。約400年前の大地震の時に赤毛の牛が寺を再建する資材を運んでくれた「赤べこ伝説」があり、ねぎらいを込めて開運「撫で牛」を建立したことから、「赤べこ」発祥の地と言われており、会津の民芸品「赤べこ」の由来にもなったとも言われています。





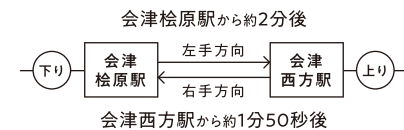
車窓
NO.13
TADAMMI LINE
冬

滝谷駅を過ぎると、只見線最大の魅力である絶景ポイントがスタート。滝谷川橋梁からは峡谷を静かに流れる滝谷川が楽しめます。



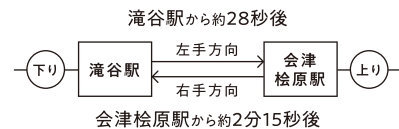
車窓
NO.15
TADAMMI LINE
春～冬

青々とした新緑の山の間を悠々と流れる只見川。その壮大さは、時間が止まった一枚の絵のようです。



車窓
NO.14
TADAMMI LINE
秋

鉄橋の上を走りながら楽しめる、滝谷川が作り出した渓谷と色づき始めた紅葉の景色が織りなす風景。



秋 | 10月頃

只見線 ちょっと寄り道話

第一只見川橋梁

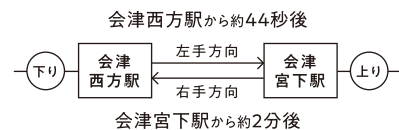
只見線の魅力を語る上で代名詞と言ってもいいほど有名なビュースポット。只見川に架かる本橋梁は、只見川が水鏡となって風景が川面に写る姿や、水面から川霧が立ち橋梁を包む幻想的な景観が素晴らしく、鉄道ファンやカメラマンの有名撮影ポイントになっています。2012年より観光客や撮影者のために、駒啼瀬トンネル脇よりトンネル上の鉄塔付近までを遊歩道「只見川ビューポイント遊歩道」として整備。撮影スポットにアクセスしやすくなりました。ちなみに橋の色は、三島町特産の桐の花と同じ薄紫色に塗装されています。





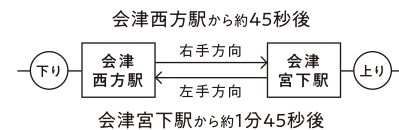
車窓
NO.16
TADAMI LINE
春～冬

只見線沿いに流れる只見川を越えるために、何本も鉄橋がありますが、そこがオススメのビューポイント。



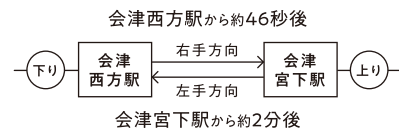
車窓
NO.18
TADAMI LINE
春～冬

只見川と並行して走るのは国道 400 号。第二只見川橋梁を撮影する場合は、この国道 400 号からがオススメ。



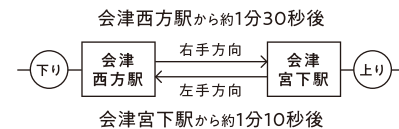
車窓
NO.17
TADAMI LINE
冬

只見川を第二只見川橋梁から望むビューポイント。冬は雪をまとった杉が、まるで水墨画のような世界を演出しています。



車窓
NO.19
TADAMI LINE
秋

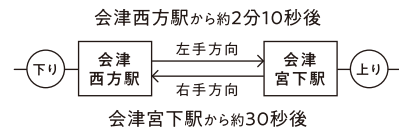
まわりの山々が秋の色に着替える頃、田んぼでは秋の味覚の収穫が終わりを告げます。こんな風景からも会津の秋の移ろいを見ることができます。





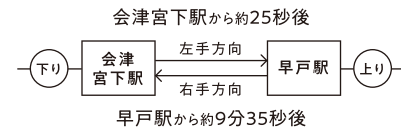
車窓
NO.20
TADAMI LINE
秋

車窓を少し見上げると、銀のアーチ橋と山々の紅葉が絶妙なコントラストを醸し出しています。山深い只見線ならではの風景です。



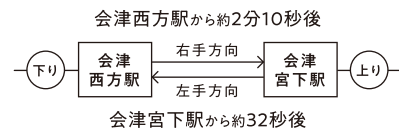
車窓
NO.22
TADAMI LINE
春

会津宮下駅近くの線路沿いには、見目麗しい桜たちが並んでいます。列車から降りなくても、お花見気分が楽しめます。



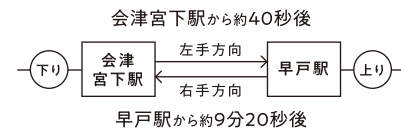
車窓
NO.21
TADAMI LINE
秋

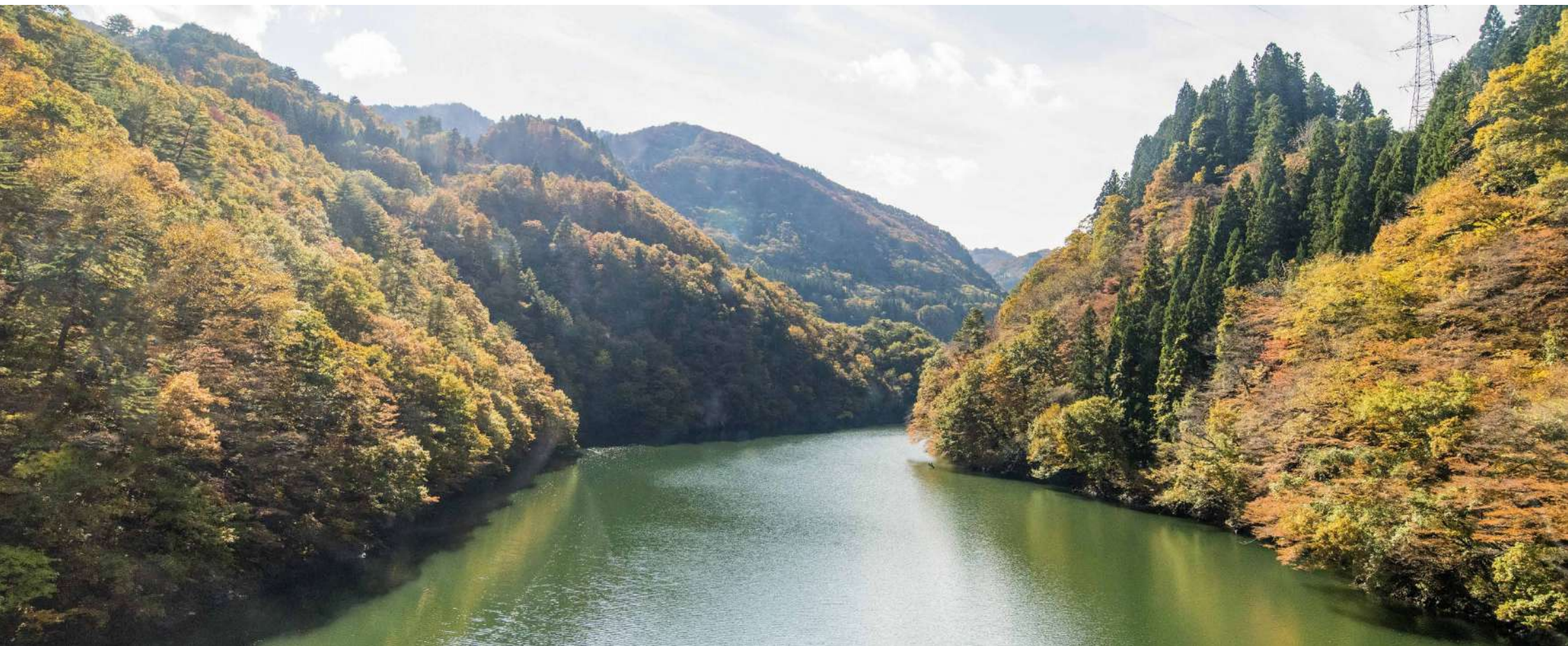
会津宮下駅に近づく頃、古い石のアーチ橋の下を流れる清流が周りの景観と相まってノスタルジックな気分を感じさせる風景です。



車窓
NO.23
TADAMI LINE
秋

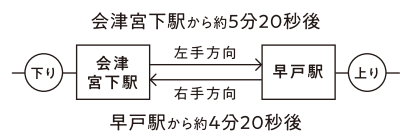
会津宮下駅を出発してすぐ見えてくるのは三島神社。車窓からでもその神聖さを感じることができます。





車窓
NO.24
TADAMI LINE
春～冬

只見線の車窓風景の中でも一番の見所と言ってもいい景色。只見川と豊かな自然が創り上げたこのパノラマビューは必見です!



冬 | 1月頃



撮影: 星賢孝

只見線 ちょっと寄り道話

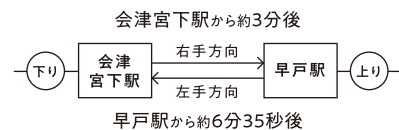
第三只見川橋梁

会津宮下駅から早戸駅までの間に架かる、全長180.40mの鉄道橋です。2021年に第一只見川橋梁など全部で17施設ある「只見線鉄道施設群」のひとつとして、土木学会選奨土木遺産にも認定されました。車窓からの眺めもさることながら、「雄大な只見線に架かる橋梁とトンネルを抜ける列車」というモチーフの美しさで、写真愛好家を魅了することでも知られます。行楽シーズンには橋を見下ろす国道252号高清水スノーシェッドに、カメラを構えた大勢の人たちが、ベストショットを求めて集います。



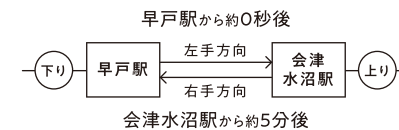
車窓
NO.25
TADAMI LINE
秋

只見川にある発電用の宮下ダム。山肌の色付いた紅葉と、ダムの支柱の色とで偶然性のあるマッチングが素晴らしい景観をつくっています。



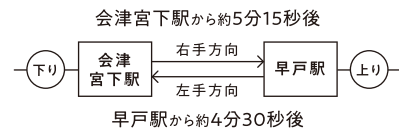
車窓
NO.27
TADAMI LINE
秋

早戸駅の目の前に広がる只見川と季節ごとの色合いを着る山々は、繊細な色彩とダイナミックな景観を見せてくれます。



車窓
NO.26
TADAMI LINE
春～冬

ゆっくりと流れる只見川の深いエメラルドグリーンと、新緑の山肌を覆うヤンググリーンの自然が生んだ緑色の共演が楽しめます。



冬 | 1月頃

只見線 ちょっと寄り道話

霧幻峡の渡し

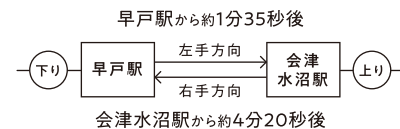
霧幻峡は、早戸駅の近くの金山町と三島町にまたがる只見川沿いの渓谷で、夏の朝晩に渓谷を漂う川霧があまりにも幻想的なため、いつしかそう呼ばれるようになりました。その川霧は、夏の早朝または夕刻の遅い時間に発生しやすいと言われていますが、気象条件によりこの光景が見られるのは年間30日程度とも言われています。1964年以来長い間途絶えていた渡し舟が「霧幻峡プロジェクト」として復活し、2010年から定期運航を開始。新しい観光スポットとして人気を博しています。





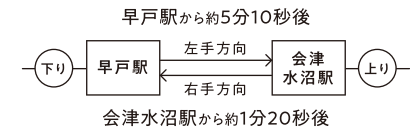
車窓
NO.28
TADAMI LINE
春～冬

只見線と一緒にカーブを描くこの道は、「奥会津シンフォニーロード」といって、自動車の走行音が音楽として聞こえる不思議な道路です。



車窓
NO.29
TADAMI LINE
秋

会津水沼駅に向かう途中にいくつかあるトンネルを抜けた山肌に立つお堂。何個目のトンネルにあるかは、実際に乗って確かめてみて。



夏 | 7月頃

只見線 ちょっと寄り道話

奥会津シンフォニーロード

早戸駅から国道252号線を只見町方面へ車を走らせてすぐの直線道路に、「奥会津シンフォニーロード」と呼ばれる走行するとメロディが流れる道路があります。設置されている距離約300mの中を、時速50km/hで走行すると約20秒間「ある音楽」が流れる不思議な道路で、東北エリアではここだけで体験できます。大自然の中、のんびりとした風景の中をゆっくり走りながら、道路から聞こえる音楽を聞くと、目と耳から奥会津の郷愁にふれることができます。



夏 | 7月頃

只見線 ちょっと寄り道話

第四只見川橋梁

只見川に架かる4つの橋のうち、唯一のトラス橋(細長い部材を両端で三角形に繋いだ構造)となっている橋梁です。近くを走る国道252号線の水沼橋の歩道からでも撮影が可能のため、他の橋梁と比べるとアクセスしやすい撮影地として、鉄道ファンやカメラマンの有名撮影ポイントとなっています。撮影場所によっては、只見線車両の正面が写る渡橋シーンが撮影できるため、橋の構造と相まって他の橋梁とは少し毛色の変わった迫力ある写真に仕上がります。



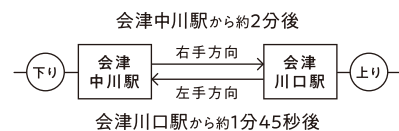
撮影：星賢孝





車窓
NO.30
TADAMI LINE
冬

会津川口駅手前の只見川の水面の先に広がる大志集落を望む風景は「大志俯瞰」と呼ばれ、晴天時は水鏡の絶景が見られます。



秋 | 11月頃

只見線 ちょっと寄り道話

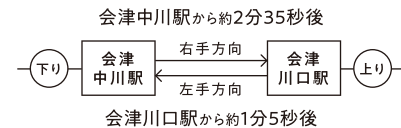
只見川

只見川は、会津坂下町から只見町にかけて只見線に沿って流れる一級河川。只見線の車窓から見える只見川の水面は穏やかで、周囲の風景を鏡のように映し出すこともあります。また、四季折々の多彩な変化も見どころで、川霧が発生することでも知られ、流域ではしばしば幻想的な風景が見られます。この流域は日本でも屈指の豪雪地帯でもあり、水量が豊かであるため、只見川には10を超えるダムがありますが、そのすべてが発電用のダムというのも特徴のひとつです。



車窓
NO.31
TADAMI LINE
春～冬

会津川口駅に着く少し前に大きな銀の鉄橋が出現。すぐ側を通り抜ける時に見上げると、ダイナミックな景色を堪能できます。



車窓
NO.32
TADAMI LINE
春～冬

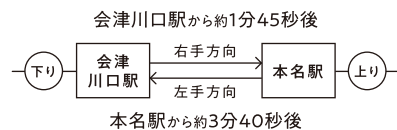
会津川口駅に到着。目前に只見川が広がる船着場を思わせる風景から、2002年「東北の駅百選」にも選ばれています。





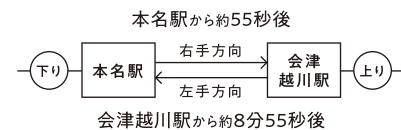
車窓
NO.33
TADAMI LINE
秋

ここからどんどん秘境感が増していきます。目の前に広がる只見川の川面が山々の紅葉を映し、視界が一面色づきます。



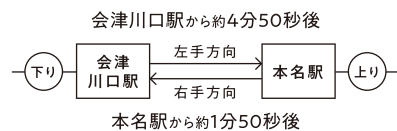
車窓
NO.35
TADAMI LINE
秋

「第六只見川橋梁」から見る「本名ダム」は指折りの絶景ポイント。秋は構造物の重厚さと紅葉との対比が楽しめます。



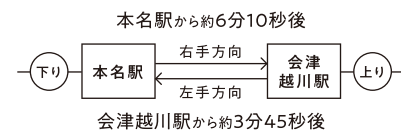
車窓
NO.34
TADAMI LINE
冬

農作業で活気をさせていた集落も、冬の農閑期は一転静かに。雪に覆われた家々で、春の訪れを静かに待っています。



車窓
NO.36
TADAMI LINE
秋

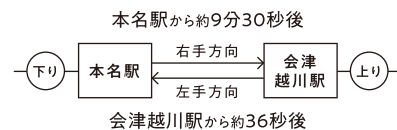
只見川に流れ込む支流。その上をわたる橋が秋色のグラデーションの隙間から見えて、風景にアクセントを加えます。





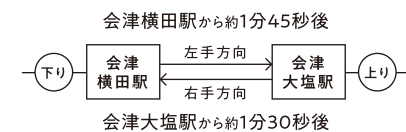
車窓
NO.37
TADAMI LINE
冬

モノクロームに見える冬の車窓。しかし奥が淡く、手前になるにつれ色濃くなるグラデーションの妙はこの季節ならでは。



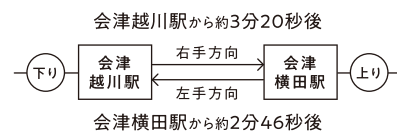
車窓
NO.39
TADAMI LINE
秋

「第七只見川橋梁」から西側を見て。川が奥へと伸びる遠近感のあるアングルを「四季彩橋」の造形が引き締めます。



車窓
NO.38
TADAMI LINE
秋

只見川の中州に建つ「伊夜彦神社」。社のすぐそばには大きな杉の木があり、地元では「夜彦様の大杉」と呼ばれています。



夏 | 10月頃

只見線 ちょっと寄り道話

第七只見川橋梁

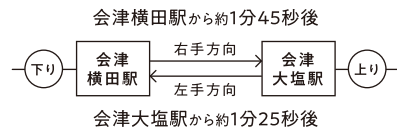
只見川の上に大きく立派に架かる橋そのものの姿や、橋梁上から見る風景の美しさから、多くの鉄道ファンやカメラマンに愛されてきた「第七只見川橋梁」。2011年7月の新潟・福島豪雨で増水・氾濫した只見川により破断・流失してしまいましたが、只見線の全線復旧が決定したのに伴い、復旧工事がスタート。同じく流失した第五、第六橋梁とともに、水害に強い構造で生まれ変わりました。





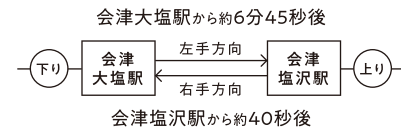
車窓
NO.40
TADAMI LINE
秋

「第七只見川橋梁」から東側を見ると静かに水をたたえた只見川と付近の集落との取り合わせが、味わい深い絵のようです。



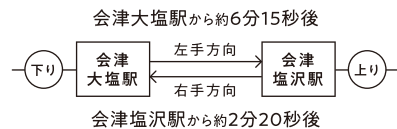
車窓
NO.42
TADAMI LINE
秋

国道252号と並走する区間としてファンに広く知られ、車と競争しているような不思議な感覚が味わえます。目の前の只見川の位置には塩沢集落がありましたが、電源開発により左岸に移転しています。



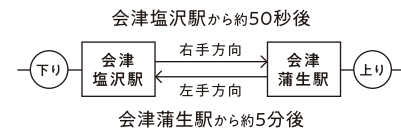
車窓
NO.41
TADAMI LINE
秋

蛇行する只見川が一望できるビュースポット。向かって右側には”会津のmatterホルン”と呼ばれる蒲生岳がそびえます。



車窓
NO.43
TADAMI LINE
冬

川と並走する「第八只見川橋梁」。先頭車両からは、橋梁を潜り抜ける迫力ある瞬間を目の当たりにすることができます。



31

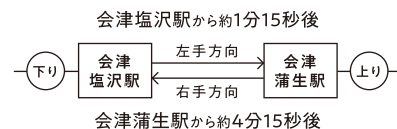
32





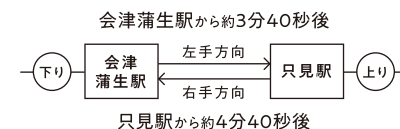
車窓
NO.44
TADAMI LINE
秋

「第八只見川橋梁」を過ぎたあたりから、
だんだんと空が広くなり、只見川の川
面に空の美しい青が映り込みます。



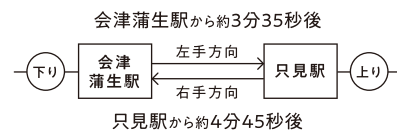
車窓
NO.46
TADAMI LINE
秋

悠然とした只見川とは異なる、穏やか
な表情を持つ叶津川。河原を渡ったら、
いよいよお待ちかねの只見駅に到着し
ます。



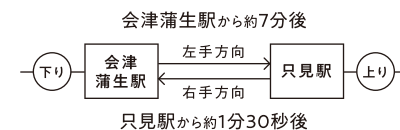
車窓
NO.45
TADAMI LINE
冬

「叶津川橋梁」付近の大きなカーブ。
車窓から線路がゆったりと曲線を描く
様を見ることができます。



車窓
NO.47
TADAMI LINE
秋

只見駅に着く少し前に見えるのが、福島県立只見
高校。地元だけでなく全国の子供たちが学んでい
ます。雪国の小規模校ながら2022年春のセンバツ
甲子園大会に出場し、甲子園の地で躍動しました。





只見線沿線 スポット

TADAMI LINE
INFORMATION



1

鶴ヶ城 [会津若松市]



会津若松のシンボルである鶴ヶ城は、桜の名所としても知られ、「桜の名所百選」のひとつに数えられています。2011年には、国内でも珍しい赤瓦に葺き替えられ、幕末当時の姿が蘇りました。

会津若松駅からまちなか周遊バスで約20分
間／会津若松観光ビューロー TEL: 0242-27-4005



会津ソースカツ丼 [会津若松市]



揚げたてのカツ、スライスしたキャベツ、会津の美味しいご飯と各店こだわりのソースのハーモニーで、古くから会津人に親しまれる至福の味です。

会津若松市内
間／伝統会津ソースカツ丼の会
TEL: 0242-54-5151
※営業時間・料金などは各店舗により異なります。

2



弘安寺 中田観音 [会津美里町]



本尊の銅造十一面観音は日ざり・縁結びのご利益があります。また、堂内のだきつき柱にだきつくと願いが叶うといわれています。

根岸駅から徒歩約10分
間／弘安寺
TEL: 0242-78-2131

3



冷やしラーメン [会津坂下町]



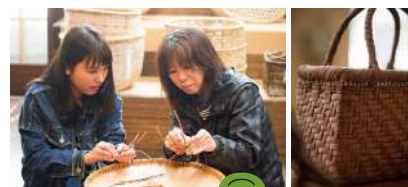
4

透明なスープには冷たい氷が入っていて、ひんやり美味しくいただけます。夏だけでなく、一年中おすすめのメニューです。

会津坂下駅周辺
間／会津坂下町観光物産協会 TEL: 0242-83-2111
※提供時期等は、各店舗によって異なります。



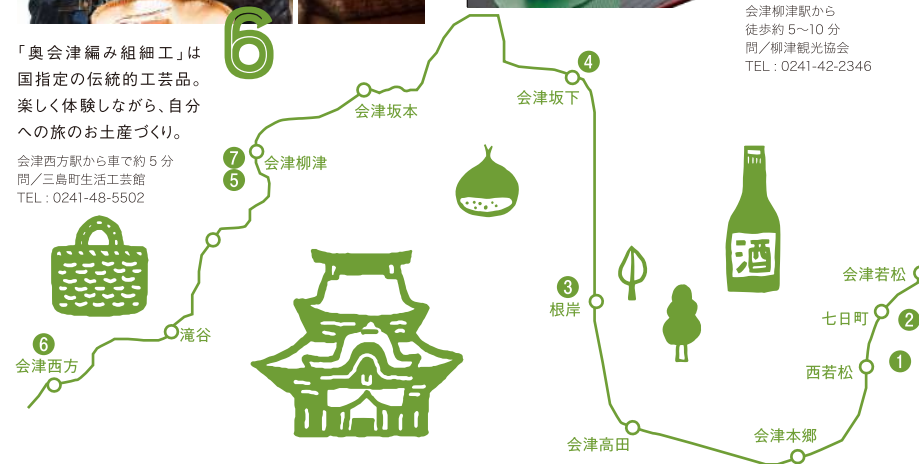
編み組細工体験 [三島町]



「奥会津編み組細工」は国指定の伝統的工芸品。楽しく体験しながら、自分への旅のお土産づくり。

会津西方駅から徒歩で約5分
間／三島町生活工芸館
TEL: 0241-48-5502

6



福満虚空藏菩薩圓藏寺 [柳津町]



5

古より人々の厚い信仰を広く集めており、会津で「柳津の虚空蔵さま」と呼ばれ親しまれ、日本三大虚空蔵菩薩のひとつにも数えられています。

会津柳津駅から徒歩約10分
間／柳津観光協会 TEL: 0241-42-2346



あわまんじゅう [柳津町]

7



災害にあわないようにとの願いを込めたあまんじゅう。地元・柳津町産のあわもち米を使用しています。

会津柳津駅から
徒歩約5~10分
間／柳津観光協会
TEL: 0241-42-2346



金山町と三島町の町界にある幻想的な絶景。川霧が佇む只見川を和舟に乗りながら眺める景色は圧巻です。

早戸駅から徒歩約2分
問/金山町観光物産協会 TEL: 0241-42-7211



東北電力奥会津水力館「みおり」 [金山町]



奥会津地域を支えた水力発電の特徴や歴史的意義、地域の魅力をアートや映像など工夫を凝らして紹介しています。

会津中川駅から徒歩約5分
問/東北電力奥会津水力館 みおり
TEL: 0241-42-7771



9

道の駅奥会津かねやま [金山町]



「奥会津金山天然炭酸の水」「奥会津金山赤カボチャ」など特産品を販売するほか、「高遠そば」など郷土の味が楽しめます。

会津中川駅から徒歩約4分
問/道の駅奥会津かねやま
TEL: 0241-55-3334



10

大塩天然炭酸場 [金山町]

11



日本でも非常に珍しい天然炭酸水の井戸。明治初期には「太陽水」と命名し販売され、遠くはヨーロッパまで輸出されていました。

会津川口駅から車で約20分
問/金山町観光物産協会
TEL: 0241-42-7211



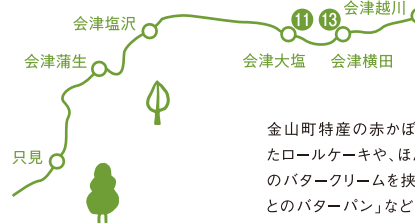
大塩温泉 [金山町]



炭酸含有温泉が多く、良質な湯量豊富なことから、温泉愛好家には隠れた人気スポット。数ヶ所の温泉を回れる「湯めぐり」も楽しめます。

会津川口駅から車で約15分
問/金山町観光物産協会 TEL: 0241-42-7211

13



金山町特産の赤かぼちゃを使ったロールケーキや、ほんのり甘めのバタークリームを挟んだ「ほんとのバターパン」など、優しい甘さを味わうことができます。

会津川口駅から徒歩約1分
問/カンケベーカリー
TEL: 0241-54-2926

沼沢湖 [金山町]



約5,600年前の火山の噴火で生まれた二重式カルデラ湖。豊かな自然が息づく内輪山が湖面に映り込む景色などが楽しめる神秘の湖です。

早戸駅から車で約10分
問/金山町観光物産協会 TEL: 0241-42-7211

12



カンケベーカリー [金山町]

14





長岡から会津へ向かう際に只見で亡くなった長岡藩家老・河井継之助を紹介する資料館です。越後長岡藩に生まれた後に江戸に学び、藩の軍事総督として戊辰戦争を戦ったその軌跡を紹介するほか、地元の人々の思いで残された「終焉の間」が館内に移築されています。

また2022年には河井継之助を描いた映画「峠最後のサムライ」も公開されました。

会津塩沢駅から徒歩約10分
問／河井継之助記念館 TEL: 0241-82-2870



町内の観光名所や観光コースの案内や、宿、食事処などの紹介してくれる観光案内所。只見線が走る様子をモチーフにしたアイテムや、地元米を使用したどぶろく、米焼酎なっかななどを販売しています。(AM9:00 オープン)お隣の第二施設では、名物「味付マトンケバブ」も販売しています。

只見駅からすぐ
問／只見町インフォメーションセンター TEL: 0241-82-5250



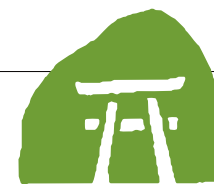
例年5月中旬頃になると、蒲生集落の人達が手入れをするカタクリの花畑が広がります。美しい紫の絨毯をぜひ。

会津蒲生駅から徒歩約3分
問／只見町インフォメーションセンター
TEL: 0241-82-5250



2022年からレンタルを開始した最新式電動自転車。イタリアンデザインで見た目が美しいのはもちろん、抜群のパワーがあり広い只見町でも気軽に移動できます。その他の自転車(普通・アシスト付)もレンタルしています。

只見駅
問／只見町インフォメーションセンター
TEL: 0241-82-5250



参道にある三の岩は「縁結びの岩」と呼ばれ、この岩に開いている孔にこよりや糸を通して結べば、縁が結ばれると言われています。

只見駅から徒歩約20分
問／只見町インフォメーションセンター
TEL: 0241-82-5250

20

ふるさと館 田子倉 [只見町]



田子倉ダム建設により湖底に沈んだ田子倉集落の記憶を後世に残すことを目的に設立された、故郷・田子倉への想いを次世代に伝える施設です。田子倉集落の歴史や狩猟道具、只見線に関する展示もあります。

只見駅から徒歩約5分
問/ふるさと館 田子倉 TEL: 0241-72-8466



ただみ・ブナと川のミュージアム [只見町]

21



東北初の「ユネスコエコパーク」である只見地域の豊かな自然に関するジオラマや標本、自然と共生してきた住民の生活文化などを展示しています。

只見駅から徒歩約25分
問/只見町ブナセンター TEL: 0241-72-8355

和風レストラン「まほろば」 [只見町]



手打ち十割そばや煮込みソースカツ重など、人気のグルメがそろった食事処です。行楽ハイシーズンは事前予約を。

只見駅から徒歩約3分
問/和風レストランまほろば
TEL: 0241-82-2372



22

季の郷 湯ら里 [只見町]

23



ふたつの浴場で深沢温泉の湯を楽しめる温泉宿。夕食には地元食材を使った料理が並び、心身ともに癒されます。

只見駅から車で約15分
問/季の郷 湯ら里 TEL: 0241-84-2888

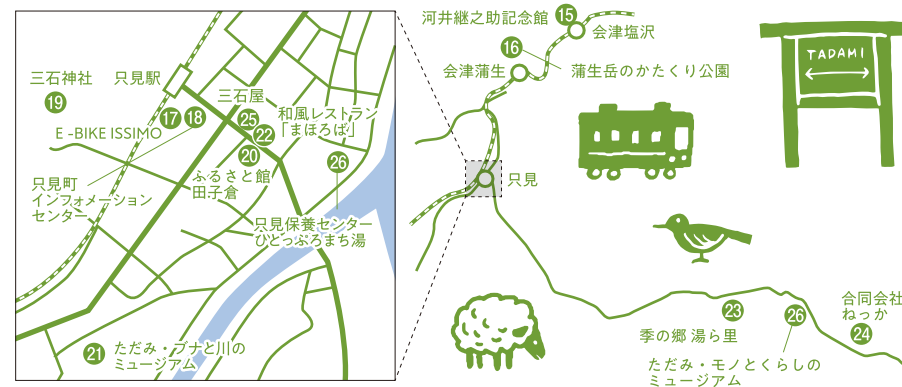


24 米焼酎ねっか [只見町]



「ねっか」は、小さな町の日本一小さな蒸留所から生まれた、福島県産の酵母を用いた香り高くフルーティな焼酎です。テイスティングルームでは試飲が楽しめます。

只見駅から車で約25分 問/合同会社ねっか TEL: 0241-72-8872



三石屋 [只見町]

25



1953年創業、只見町民から愛され続けている町のお菓子屋さん。子どもからお年寄りまで人気の商品「なめらかはちみつプリン」は、地元産の素材にこだわった濃厚な卵黄と蜂蜜のやさしい甘さが好評です。

只見駅から徒歩約3分 問/三石屋 TEL: 0241-82-2092



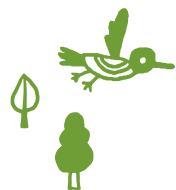
ただみ・モノとくらしのミュージアム [只見町]

26



国指定重要有形民俗文化財「会津只見の生産用具と仕事着コレクション」2,333点を収蔵・展示している博物館で、民具収蔵庫を見学できます。展示棟では、企画展やテーマ展などを企画し、地域の生活と文化に関する展示をしています。

只見駅から車で約20分
問/ただみ・モノとくらしのミュージアム TEL: 0241-86-2175



ブナの森やミズバショウの咲く湿地、園内から望む残雪の浅草岳など、多彩な魅力が満喫できる自然観察施設です。所要時間や体力などに合わせたコースを選び、散策が楽しめます。

大白川駅から車で約 15 分
問/新潟県立浅草山麓エコ・ミュージアム
TEL : 025-798-4141



静かな山間地に位置する温泉です。露天風呂の解放感は抜群で、湯の滝から立ち上る湯気が鷹侍山(たかまчыま)をふんわり包む絶景に出会えます。

入広瀬駅から徒歩約 10 分
問/寿和温泉 TEL : 025-796-3033



名物手打ちごぼうそばや、ぬか釜で炊いた魚沼産コシヒカリ「惣五郎米」が絶品。近くの鏡ヶ池の湖畔では、春には桜、秋には紅葉が楽しめます。

入広瀬駅から徒歩約 15 分
問/道の駅いりひろせ TEL : 025-796-2500



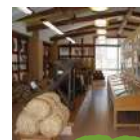
ハーブはもちろん、さまざまなお花が園内を彩ります。また、広大な敷地では、ツリークライミングやバーベキュー、オートキャンプなど、多彩なアクティビティを楽しむことができます。

入広瀬駅から車で約 10 分
問/越後ハーブ香園入広瀬 TEL : 025-796-2120



寛政9年(1797年)に建てられた豪農のお屋敷。桁行十六間・梁間六間という豪壮さで、昭和49年に国の重要文化財として指定されました。隣接の民俗文化財館では、この土地の暮らしがうかがえる品々が約1万点展示されています。

越後須原駅から徒歩約 10 分
問/目黒邸 TEL : 025-797-3220



魚沼産コシヒカリの米粉を使用したバウムクーヘン「魚沼の木」が人気のお店です。専属パティシエが丁寧に焼いています。しっとりモチモチ、控え目な甘さでお土産にもおすすめです。

越後広瀬駅から徒歩約 8 分
問/お菓子工房まるみや TEL : 025-799-2112



地域の方々が、旬の野菜を収穫後すぐに店頭に出して販売している直売所として話題です。併設のそば処も昼には完売することもある人気店です。

魚沼田中駅から徒歩約 7 分
問/ものずき村 TEL : 025-799-4801



カタクリ、桜、ツツジ、コスモスなどが咲く公園です。眺望も良く、市街地や遠くには越後三山が見渡せます。遊歩道があるので、季節の花々を愛でながら山頂まで散策を楽しめます。

小出駅から徒歩約 10 分
問/魚沼市観光協会 TEL : 025-792-7300





車窓をアテに。
宵酔い只見線紀行。

六角精児がリコメンド

只見線で 酔い日 旅立ち

「呑み鉄」はお酒の
買い出しに始まる



初夏の風が心地よいある日。六角精児さんと一緒に只見線の旅へかけます。六角さんといえばローカル線でお酒を呑みつつ、ぶらりと途中下車しては、その土地土地の魅力を再発見する「呑み鉄」という新ジャンルの番組でも知られます。さて今日の旅にはどんなお酒を用意しましょうか？「私は基本的に、コンビニでさっとお酒とおつまみがいいですね。特につまみはチーカマやベビースターラーメンなんかの乾き物や練り物が中心。お弁当は口ケ弁で食傷気

味なこともあって、あまり買いませんね」というわけで、今回会津若松駅の中で購入したのは、鶴乃江酒造の「会津中將・純米」と榮川酒造の「榮川」のワンカップ、それとビーフジャーキー。それではゆるりと出発いたしましょう。



劇団の興行で 只見線と出会う

六角さんは、これまでさまざまなシーンで只見線の魅力について語り、「只見線のうた」を作り、その全線復旧を願ってきたひとり。そもそも初めて只見線に乗車したのはいつのことだったのでしょ

う。「劇団公演が活動の中心だった頃から、22年ぐらい前ですかね。劇団で会津へ芝居しに来たんです。そのときにローカルでひなびた路線があるなど。日に数本しか走っていないって、一体どんな鉄道なんだろうと思って。それで会津若松駅から会津坂下駅まで乗ったのが最初ですね」。それ以来、プライベートでもふらりと只見線に乗るようになり、その風情を味わっています。



只見線の魅力は ディテールに宿る

只見線の魅力の一つに、ディーゼル車ならではのエンジン音があるといいます。「最初にゴロゴロ……って聞いて、そこから少し静かになったりする。なんか、電気で走る電車にはない“郷愁”があるでしょ」。またベストシーズンは夏から秋にかけてかと思いきや「意外に冬の只見線も味わい深いんですよ」と六角さん。「数年前の冬、小出駅から乗車した時は雪の多さにびっくりすると同時に、素晴らしい雪景色に感激してしまいました。宿泊先



「奥さんを退屈 させちゃいました(笑)」

ひとりてふらりと電車旅をすることも多い六角さんですが、実は以前までは奥さんを伴ってでかけたこともあったそう。「でも、奥さんには“無目的にダラダラ電車に乗る”ということの楽しさが、伝わらなかったみたいで(笑)。あまりに退屈そうなので、つき合わせるのが申し訳なくなっちゃいました。」それ以来、誰か連れていきたいときは、「六角精児バンド」のメンバーを誘うようになったそう。「以前、来たときは夏だったんで、カブトムシやクワガタを探しに行きまし

の民宿で食べたお米も抜群の美味しさでした!!」

そして車窓に広がる 圧倒的な景色！

そうしたディテールの愛おしさはもちろんですが、なんといっても只見線・最大の魅力は車窓からの風景。「山の間を川が流れ、そこにぼつんぼつと家が建っている。そうした日本の田舎、里山の風景がぎゅっと詰まっている感じなんですよ。そして只見駅のあたり、福島と新潟の県境を過ぎると、今度は切り立った崖や山の景色が広がって、一気に自然が迫っ



福島県側の終着駅・只見
駅で記念の1枚

てくる感じのダイナミズム。なかなかこういう風景には今、出会えないですよ」。

「呑み鉄」でのお酒はほろ酔い加減がベスト。六角さんは1回の乗車で2合ほど、ビールならロング缶1本ぐらいを消費するそう。食事は下車した駅の近辺でるのが流儀です。「宿泊するときは民宿が多いかな。だってこの辺り、全然ホテルがないからね」。



只見駅の中にある観光案内所のスタッフの方と談笑



たよ。場所は只見町のキャンプ場だったかな？果実と焼酎で仕掛けを作って、翌朝ワクワクしながら仕掛けた場所に行きました」。一行は会津の自然を前に、すっかり少年になってしまったそう。

地元の人との 交流を味わう旅

さて「呑み鉄」の楽しみは、電車を降りてからも続きます。下車した先での酒宴もまた、旅を彩る要素のひとつ。今夜は只見駅そばの「和風レストランまほろば」で、地元の人たちと美味を囲みます。10 数名の地元民による出迎えを



受け「うわ、こんなに集まってくれたの!？」と驚く六角さん。テレビでいつも見る顔を間近に、心なしかはじめは緊張ムードが漂っていました。が、しかし。一旦お酒が入れば「はじめまして」の遠慮もどこへやらで、小上がり席からカウンターまで、ひとつひとつを律儀に回る六角さんに、みなほんのり赤ら顔で「次はこっちに来て～」と声をかけるかける！大賑わいの中、笑顔の宴はしばらく続きました。

記載の記事は、2018年7月に撮影・取材した内容です。



「六角精児からのお願い」

2022年10月1日、JR 只見線が多くの人の頑張りと努力を経て、約11年ぶりについに念願の全線再開通を果たしました。関係者の皆さん、開通までの長い道のり、本当にお疲れ様でした。

この只見線は沿線住民の方々の大切な足であるとともに日本有数の絶景ローカル路線でもあります。大自然とこの地方の気候が織り成す日本の原風景の美しさは他のローカル線の追随を許さず、この路線を走る列車の車窓から見える景色は実に様々な表情を孕んでおり、まるで奇跡のよう。僕自身、何度も乗車していますが、その眺めに飽きるということは一切無く、只見線とその沿線にどんどん魅了され続けております。

そんな只見線だからこそ、せっかく苦労して再開通させたのだからこそ、より大勢の方々に乗車してもらいたい。旅好きな人に、本格的な自然に接することの少ない都会育ちのお子さんに、只見線とその沿線の素晴らしさをじっくりと味わって頂き、いつまでも記憶に留めて欲しい。

どうか皆さん、只見線に乗って里山を巡りましょう。誤解を恐れずに言うならば、不便を楽しみましょう。そこにはきっと我々が忘れかけていた「何か」があるはずです。

旅好き、鉄道好き俳優
六角精児



【取材協力】和風レストラン まほろば
只見町大字只見字宮前 1303-7
只見駅から約徒歩 3 分
TEL : 0241-82-2372
営業時間／昼 11:30-14:00、夜 17:30-21:00
定休日／毎週火曜

只見線の歴史を振り返る

独特の音や佇まい、そして車窓越しに広がる絶景がファンに愛される只見線。1942年の開業後、会津線と統合し、会津と新潟をつなぐ路線となりました。その歴史を振り返ります。

西暦	会津線	只見線
1926	「会津線」として、会津線会津若松駅から会津坂下駅間(21.6km)が開業される。西若松・会津本郷・会津高田・新鶴・会津坂下の各駅が新設される。	
1928	会津坂下駅から会津柳津駅間(11.7km)が延伸開業される。塔寺・会津坂本・会津柳津の各駅が新設される。	
1934	七日町・根岸・若宮の各駅が新設される。	
1941	会津柳津駅から会津宮下駅間(12.1km)延伸開業される。郷戸・滝谷・会津松原(仮停車場)・会津西方・会津宮下の各駅が新設される。	
1942	会津松原仮停車場が、会津松原駅に改められる。	「只見線」として新潟県小出駅から大白川駅間(26.6km)開業される。越後広瀬・越後須原・入広瀬・大白川の各駅が新設される。
1951		菰神・魚沼田中・上条・柿木の各乗降場が新設される。10月1日:菰神・魚沼田中・上条が駅に改められる。
1954		黒又川仮乗降場(入広瀬-柿木間)が新設される。
1956	会津宮下駅から会津川口駅間(15.4km)延伸開業される。早戸・会津水沼・会津中川・会津川口の各駅が新設される。	
1957	電源開発株式会社、専用鉄道貨物輸送を開始。会津川口から只見間を、昭和36年12月迄実施。	
1963	電源開発(株)より譲渡を受け、会津川口駅から只見間(27.6km)延伸開業される。会津横田・会津蒲生・只見の各駅が新設される。	
1971	8月29日:『只見線』に統合。只見から大白川駅間(20.8km)延伸開業。会津若松駅から只見駅間を会津線から分離し、『只見線』に統合。会津若松駅から小出駅間135.2kmとなる。田子倉駅が新設される。只見駅の駅名標に「田子倉駅」の行先表示が記載されるはずだが、間に合わずに開業日を迎える。    	
1971	新潟県側の小出駅から大白川駅間のSLが廃止される。	
1974	福島県側のSLが廃止される。	
1987	国鉄民営化により、東日本旅客鉄道株式会社が継承。	
2001	全線開通30周年記念運行として「SL&DL会津只見号」が運行される。※会津若松～会津川口・只見間(この年から「SL会津只見号」が毎年運行される	
2004	10月23日:新潟中越大地震発生。只見～小出間が不通となる。(11月20日運転再開)	
2011	3月11日:東日本大震災発生。 7月27日～30日:新潟福島豪雨災害により只見線に被害。	

※写真協力(1)～(3):篠崎 隆一

只見線の主な歴代車両



キハ40形 (1979年～)

新潟・福島豪雨による路線分断前までは、郡山総合車両センター会津若松派出所所属車が全線で運用。被災後は会津若松駅 - 会津川口駅間で会津若松所所属車、只見駅 - 小出駅間で新津所所属車が運用される形態となった。



キハ52形

急勾配線区向けにエンジンに2基搭載。コイルバネ式台車装備により旧来タイプより乗り心地が向上。



キハ53形200番台

キハ58 741・742を基礎に運転台を車体の前後に置くよう改造。
※写真協力:鈴木 公久



キハ58系

普通列車や急行「奥只見」として定期運用され、臨時列車「只見紅葉号」などとして入線した。

さまざまなタイプの列車が活躍してきた只見線、運用や形状の変遷などを振り返ります。



C11形蒸気機関車

国鉄時代に貨物列車や客車列車を牽引。臨時列車「SL会津只見号」として真岡鐵道所属325号機が入線していたが、2020年東武鉄道に譲渡。



キハ110形 (2020年～)

衛星携帯電話・GPS設置工事を施工した新津運輸区所属の100番台1両と200番台3両が使用される。このうちキハ110-223は、2022年11月よりキハ40系の東北地域本天色のリバイバル塗装車となる。



キハE120形 (2020年～)

キハE130系を基本とした軽量ステンレス構体。ワンマン運転に対応するため、乗務員室後部仕切には運賃表示器とLED式案内表示器を設置。キハ110系との併結を可能とするため、二段式の電気連結器を備えている。全車とも郡山総合車両センター会津若松派出所所属で、同所属のキハ40系からすべて置き換えられた。

ラッピング車両

ときにコンセプトにあわせた、特別なデザインの車両が走ることもありました。過去にはこんな列車が走っていたことも!



キハ40形 只見ユネスコエコパーク号ラッピング(第1弾)
[2014年9月～2017年7月]

2014年に登録が決定した「只見ユネスコエコパーク」のPRを兼ね、只見川をイメージした青緑色をベースに、エリアの動植物を配置している。



キハ48形 只見縁結び
[2015年9月～2020年7月]

只見町の文化や生活を育んできた、これまでの歴史や事象のつながりを「糸」として表現。河井継之助・ブナ・三石神社・雪まつり花火などを、1本の糸でつなぐデザインによって「共生」をイメージしている。



キハ40形 只見ユネスコエコパーク号ラッピング(第2弾)
[2018年3月～2020年3月]

只見川をイメージした青緑の車体に、只見町を象徴するイヌワシやカタクリなどのイラストが描かれている。車両の横には「人や縁を結ぶ」という思いを込め、「エンムスピ」の文字がデザインされている。

只見町へのアクセス

ACCESS MAP



JR区間の詳しい最新情報は、JR東日本のホームページでご確認ください。
<https://www.jreast.co.jp/>



■ **福島空港**
 札幌：新千歳空港より約1時間20分
 大阪：伊丹空港より約1時間10分
 福岡：福岡空港より約1時間50分
 福島空港ホームページ
<http://www.fks-ab.co.jp>

■ **新潟空港**
 札幌：新千歳空港より約1時間10分
 大阪：伊丹空港より約1時間10分
 福岡：福岡空港より約1時間50分
 新潟空港ホームページ
<http://www.niigata-airport.gr.jp>

■ **羽田空港**
 詳細はホームページよりご確認ください。
 羽田空港ホームページ
<https://tokyo-haneda.com/>
 ※フライト情報について詳しくは各空港のホームページをご覧ください。

JR只見線時刻表

時刻表・運転状況はJR東日本のホームページをご覧ください。

<https://www.jreast-timetable.jp/> JR東日本 時刻表



定期路線ワゴン「自然首都・只見号」について

首都圏から電車で只見へ！

定期路線ワゴン「自然首都・只見号」は会津鉄道の会津田島駅と只見駅間を運行するジャンボタクシー（定員9名）です。只見町へのアクセスはもちろん、JR只見線・会津鉄道と併用することで会津の周遊ができますのでご利用ください。運行時間ほか、詳細は只見町ホームページをご確認ください。



料金

- 只見町内⇔会津田島駅
お一人様(1,500円/回)
- 只見町内
お一人様(200円/回)

※小・中学生は半額、幼児は無料
<https://www.town.tadami.lg.jp/access/index.html>



本路線はヤフー路線で検索できます

<https://transit.yahoo.co.jp/>

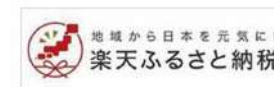
出発：会津田島 ⇔ 到着：只見 で検索してください。 >>



お問合せ／只見町インフォメーションセンター TEL：0241-82-5250

ふるさと納税で只見線を応援しよう！

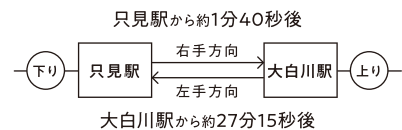
ふるさと納税（「自然首都・只見」応援基金寄付金）は、応援したい自治体に寄附を行う制度です。只見町ではこれからも、いつまでも只見線をつないでいくために、全国の皆さまの応援をお待ちしております。





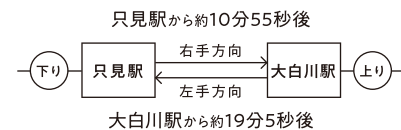
車窓
NO.48
TADAMI LINE
春～冬

只見駅を出発してすぐに見えるのは三石神社。新緑の中に立つ赤い鳥居が印象的。「縁結びのパワースポット」としても有名。



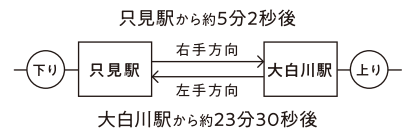
車窓
NO.50
TADAMI LINE
秋

紅葉の山肌から見えるコンクリート製の建造物は、「スノーシェッド」と呼ばれるもので、冬の間、人や道路を雪崩から守ってくれます。



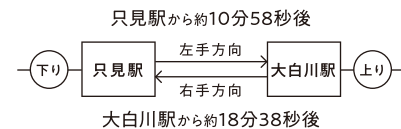
車窓
NO.49
TADAMI LINE
秋

山肌にある石を積み上げて作られた人工滝。段差を落ちていく豪快な水の流れと、美しい紅葉が見どころです。



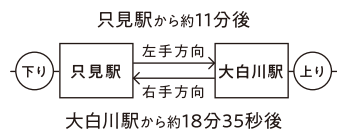
車窓
NO.51
TADAMI LINE
春～冬

只見駅を出て1つ目の長いトンネルを抜けた先に見えるのが田子倉湖。穏やかな水面には鏡のように風景が映り込みます。

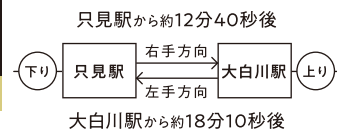




車窓
NO.52
TADAMI LINE
秋

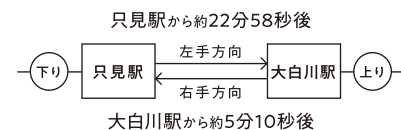


車窓
NO.53
TADAMI LINE
秋



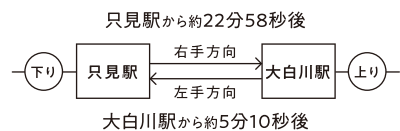
車窓
NO.55
TADAMI LINE
春～冬

ゆっくり走る鉄橋から見下ろすと、赤いアーチ橋が見えます。大自然の緑とのコントラストが絶妙です。

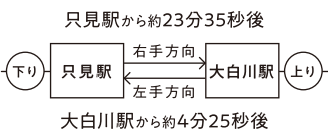


車窓
NO.54
TADAMI LINE
春～冬

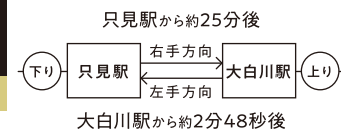
さらに長いトンネルを抜けていくと、車窓から見える風景も険しさを増すと同時に、秘境感と絶景感も増していきます。



車窓
NO.56
TADAMI LINE
秋



車窓
NO.57
TADAMI LINE
秋



55

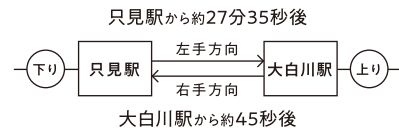
56





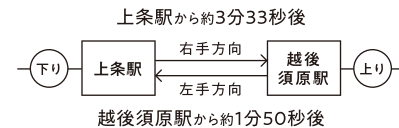
車窓
NO.58
TADAMI LINE
秋

青い空や紅葉に染まり始めた木々。周囲のの鮮やかな色が末沢川の川面に映り、溪谷美もひとときわです。

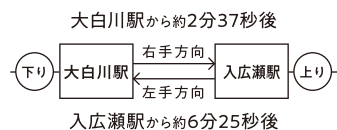


車窓
NO.61
TADAMI LINE
春～冬

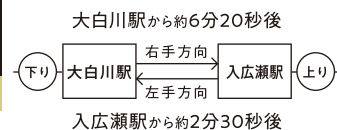
新潟県側に入って、只見線と平行に走る川は、「破間川」と書いて「あぶるまがわ」と読みます。米どころ・魚沼における重要な水源にもなっています。



車窓
NO.59
TADAMI LINE
秋

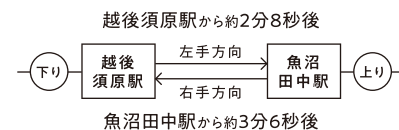


車窓
NO.60
TADAMI LINE
秋



車窓
NO.62
TADAMI LINE
春～冬

上権現堂山と下権現堂山さらに唐松山が連なる山並みと、その麓に広がる青田が織りなす緑色の共演が美しい風景です。



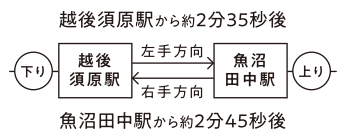
57

58

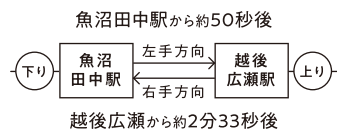




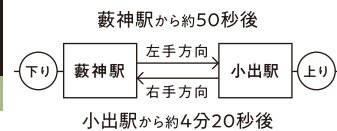
車窓
NO.63
TADAMI LINE
春～冬



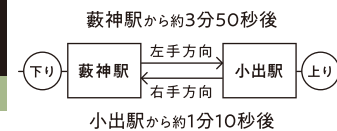
車窓
NO.64
TADAMI LINE
春～冬



車窓
NO.66
TADAMI LINE
春～冬

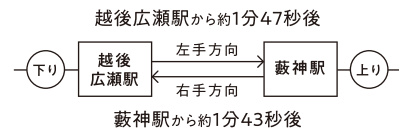


車窓
NO.67
TADAMI LINE
春～冬



車窓
NO.65
TADAMI LINE
春～冬

秋の風景の間をぬって流れる破間川。山にかかる霧の影響か、どことなく幻想的な雰囲気に見えます。



車窓
NO.68
TADAMI LINE
春～冬

車窓の旅の終着駅は、新潟県魚沼市の小出駅。「小出駅」の看板は魚沼市出身の俳優渡辺謙さんの書です。美しい車窓からの風景を楽しんだ後は、新しい旅へ出発です！

小出駅到着！



59

60





地域の人々の足として、
旅人に感動を生む路線として。
これまでも、これからも。

新潟県の小見駅と福島県の会津若松駅を結ぶ、全長約 135km の只見線。雪で国道が通行止めになる冬には地域唯一の交通手段になるなど、地元の人々の大切な足となってきました。しかし、震災や新潟・福島豪雨の被害を受け、会津川口・只見駅間が不通に。復旧には数々の困難がありましたが、人々の思いが実を結び、2022 年 10 月 1 日に全線で運転が再開されました。



●掲載している写真・情報は、2023年3月現在のものです。●掲載内容が予告なしに変更になることや、時期による変更及び臨時休業などご利用いただけない場合がありますので、予めご了承ください。●車窓ポイントまでの所要時間等は、おおよその目安となります。●車窓風景を撮影する際には、まわりのお客様への配慮を十分行った上で撮影をお願いします。●掲載している風景写真は季節・時間によって見え方が異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

発行: 福島県只見町役場
〒968-0421 南会津郡只見町大字只見字町下2591-30 TEL: 0241-82-5220